

茨城県立医療大学 出張模擬授業

選抜特進文理コースでは、3月13日木曜日に医療系の進学を希望する生徒や興味のある1・2年生生徒を対象に、茨城県立医療大学の先生をお招きして、看護分野・理学療法分野・作業療法分野3分野の出張模擬授業を実施しました。



高橋由紀先生による『看護』の現状と展望—科学的看護を目指して」というテーマで看護分野についての講義がありました。

まずは、看護師の歴史としてナイチンゲールについて、説明がありました。

続いて看護師の役割や看護学についての説明、茨城県立医療大学で学ぶことを分かりやすく説明していただきました。女子ばかりでなく男子も参加し、熱心に講義を受けていました。





同時に別の教室では浅川育代先生による「理学療法士って？」というテーマで理学療法について講義がありました。

理学療法の説明をした後、実際に理学療法の考えを体の構造の理解を通じて理解するため、実際に生徒が体験しています。

筋肉や骨の構造を理解していれば、生徒が力を入れて腕を固定していても・・・。



軽い力で簡単に動かすことができます。このことを生かせば、リハビリに活用できて、身体的回復に効果的なことを、生徒たちは理解が出来たようです。



体が硬い生徒を一時的に柔らかくするため、筋肉に刺激を与えるストレッチを行っています。実際にストレッチしてもらった前よりも前屈で曲がるようになり、生徒は驚いていました。





2時間目には千田直人先生による「作業療法概論」というテーマで作業療法について講義がありました。

講義では作業療法と理学療法の違いの説明があり、患者に寄り添いながら体の機能を回復させていくことなどが実践例を示されながら進んで行きました。



茨城県立医療大学の3名の講師の先生方にはお忙しい中、生徒のために講義を行っていただき、誠にありがとうございました。生徒たちも真剣に講義を聞き、将来の目標を決めていく良いきっかけになったと思います。

選抜特進文理コースでは、今後も生徒の聞いてみたい学問分野の専門家をお招きして出張高授業を随時開催していきます。

生徒の感想



看護分野

この授業では、看護の意味や言葉の由来を学んだり、ナイチンゲールについて学んだり、看護の種類について知ったりしました。また、それだけではなく、足湯の効果や便秘の時の対処法など、看護科で学ぶ内容を体験しました。

難しいことが書かれていて、理解するには苦労したけれど、役に立つことが聞けて良かったです。また、看護にはたくさんの分野があることや、専門看護師や認定看護師があり、それぞれに役割があることが分かりました。

看護について、私が知らなかったことをたくさん知ることができました。このことは今後の進路について参考にしたいと思いました。

理学療法分野

私は今まで、理学療法士に興味はありませんでした。今回の講義を聞いたのは、理学療法士とは実際にどのようなことをしているのか知りたいと思ったからです。今回の講義で、理学療法学は様々な学問と関連しているということを知りました。運動学や心理学だけでなく、建築学や工学とも関連しているということを聞いて、確かにバリアフリーなどは理学療法と大きく関連しているなと思いました。また、「患者をイスから立ち上がらせる」という動作について、ただ患者を持ち上げるという他に、腕に力を加えることによって、脚の筋肉を使わせて立ち上がらせるという方法もあることに 驚きました。私は理学療法士は医療の現場に

において、大切な存在なのだと改めて感じました。

作業療法分野

今回の授業で初めて、作業療法士という職業についてしっかりと理解しました。作業療法が「実用的な応用動作で得るためにすること」、ということは何となく知っていましたが、『『こころ』や『人間関係』の安定を図る』というのは初めて聞きました。例えば、引きこもりがちの人と一緒に料理をしたり、統合失調症の方と一緒に、その人が好きだったことをやったり、作業療法というのはマイナーな仕事ですけど、とても重要な役割を担っているんだなと感じました。またそれと同時に、作業療法は患者さんとぴったりとよりそった仕事だとも思いました。その人がしたいこと、やりたいことを達成することを目的とし、その人のための治療を施したり、その人が昔好きだったこととで治療をして言ったりと、その患者さんとしっかりと向き合って理解していかないと出来ないと思います。その点に私はとてもひかれました。そしてとてもやりがいのある仕事だとも思いました。

今回の授業を受けて、たくさんの発見ができました。とても良い経験になったと思います。